

2017年度 所員の研究・社会的活動報告

Research Reports 2017

(2017年4月1日～2018年3月31日)

氏名・専門領域	赤畑 淳 ●精神保健福祉論, ソーシャルワーク実践論
著書	1) 赤畑淳(2018)「実習指導者によるスーパービジョン」河合美子編『精神保健福祉援助実習[第2版]』弘文堂. 2) 赤畑淳(2018)「関係性が交差する実習巡回指導」河合美子編『精神保健福祉援助実習[第2版]』弘文堂.
資料・研究ノート等	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2017)『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2018〈専門科目〉』中央法規出版.
学会発表	1) 岩本操, 赤畑淳, 浅沼充志, 岡本亮子, 栗原活雄, 坂入竜治, 鈴木あおい, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太(2017)「『精神保健福祉士業務指針』の普及啓発に向けた課題の検証～業務指針研修におけるアンケート結果からの考察～」第16回日本精神保健福祉士学会学術集会, 大阪, 9月. 2) 鈴木あおい, 岩本操, 赤畑淳, 浅沼充志, 岡本亮子, 栗原活雄, 坂入竜治, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太(2017)「『精神保健福祉士業務指針』講師養成におけるプログラム開発～デモンストレーションを活用した演習方法に焦点をあてて～」第16回日本精神保健福祉士学会学術集会, 大阪, 9月. 3) 岡本亮子, 岩本操, 赤畑淳, 浅沼充志, 栗原活雄, 坂入竜治, 鈴木あおい, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太, 岩永靖, 下田学, 名城健二, 藤澤茜(2017)「学校・教育分野における精神保健福祉士の業務特性と業務指針～学校・教育分野の業務指針作成に向けて～」第16回日本精神保健福祉士学会学術集会, 大阪, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会:「精神保健福祉士業務指針」委員会副委員長 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会:学会誌投稿論文等査読小委員会委員 3) 特定非営利活動法人あんずの家(就労継続支援事業B型)副理事長 <研修等> 1) NPO法人「あんずの家」・合同研修:「人の理解とコミュニケーション～リフレーミングの技法～」講師 2) 福島県精神保健福祉士会・研修:「『精神保健福祉士業務指針及び業務分類第2版』の活用～業務における専門性を伝承する～」講師 3) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会・ソーシャルワーク研修2017・冬:「ソーシャルワークの視点から日常業務を再構築しよう～『精神保健福祉士業務指針』を活用した専門性の確認～」講師 4) 千葉県精神保健福祉士協会・研修:「精神保健福祉士の業務指針を学び、実践を振り返る」講師
氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
論文	飯村史恵(2017)「支援困難事例から考える福祉サービスの今日的課題」『コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, pp.119-137 立教大学

資料・研究ノート等	飯村史恵 (2017)「成年後見制度利用促進法の課題—求められる本人主体の仕組み」『月刊福祉』11月号, pp.52-53 全国社会福祉協議会
学会発表	飯村史恵 (2017)「地域における新たな権利擁護システムの構築に向けて—一国連障害者権利条約第12条を踏まえた試論—」日本地域福祉学会, 愛媛, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員, 権利擁護センター運営委員会副委員長, 法人後見のあり方検討委員会委員 2) 文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員 3) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 4) 西東京市社会福祉協議会発展強化検討委員会委員 5) 埼玉県地域福祉推進委員会委員 6) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会副委員長 7) 志木市成年後見制度利用促進審議会副会長 8) 日本福祉介護情報学会理事 9) 救護施設あかつきオンブズマン 10) 社会福祉法人共働学舎第三者委員 11) 一般社団法人日本社会福祉学会広報委員 12) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 13) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報理事 14) 科研費研究(基盤C)「意思決定支援を基盤とする福祉契約の研究～地域における新たな権利擁護システムの構築」研究代表者

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 脳神経科学, 発育発達
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Takayuki Ishiwata, Benjamin N. Greenwood, Changes in thermoregulation and monoamine release in freely moving rats during cold exposure and inhibition of the ventromedial, dorsomedial, or posterior hypothalamus, Journal of Comparative Physiology B, 188, pp.541-551, 2018. 2) Takayuki Ishiwata, Hiroshi Hasegawa, Benjamin N. Greenwood, Involvement of serotonin in the ventral tegmental area in thermoregulation of freely moving rats, Neuroscience Letters, 653, pp.71-77, 2017.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Akira Kawata, Yuta Kaneda, Mikinobu Yasumatsu, Takayuki Ishiwata A Long photoperiod affects core body temperature, anxiety-like behaviors, and monoaminergic neurotransmitters in rat brains, Neuroscience 2017, Washington D.C. 2) 石渡貴之(招待講演), ラットの体温調節機構における脳内セロトニンの関与～マイクロダイアリシス, テレメトリー, ホモジネート, 行動実験によるアプローチ～, 第31回運動と体温の研究会, 愛媛 3) 川田輝, 金田雄太, 安松幹展, 石渡貴之, 長明期の明暗周期がラットの生理指標・不安様行動・脳内神経伝達物質に及ぼす影響, 第72回日本体力医学会, 愛媛 4) 石渡貴之(オーガナイザー, シンポジスト), 環境ストレスに対する生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動の連関(シンポジウムIV:「脳-身体-環境の連関について, 行動神経科学的アプローチからの知見を運動生理学に生かす」), 第25回日本運動生理学会大会, 横浜国立大学
学内・学外における社会的活動等	<p>(社会的活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 3) 公益社団法人 全国大学体育連合 研修部 <p>(研究活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C「自発運動が社会的隔離ストレス下の生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動に及ぼす影響」(2017-2019)

氏名・専門領域	今西 平 ●コンディショニング科学
論文	1) 今西平, 魚田尚吾, 稲葉聡, 梅林薫 (2017)「手動ストップウォッチによるテニス選手の疾走・敏捷性測定の妥当性と再現性」『日本ストレングス&コンディショニング協会機関誌 24 (10)』 pp.20-26 2) 今西平 (2018)「大学生の体育実技に対する態度と大衆性尺度の関連性」『身体運動分化論叢16』(印刷中)
学会発表	今西平 (2017)「自己と他者の疾走運動に対する主観的努力度の対応関係」日本体育学会第68回大会, 静岡, 8月.

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学、ポジティブ心理学
論文	1) 坂内くらら, 嘉瀬貴祥, 木村駿介, 大石和男 (2017)「プロのピアノ奏者における演奏不安の発現の包括的構造に関する質的研究: 心理・身体・環境要因とパフォーマンスの経時的変化に注目して」『ストレスマネジメント研究』, 第13巻2号, pp.75-84日本ストレスマネジメント学会(査読有), ストレスマネジメント学会奨励研究賞(嶋田洋徳賞)受賞. 2) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2017)「パーソナリティ・プロトタイプに基づいた大学生の類型化と精神的健康の関連」『健康教育学研究』, 第25巻3号, pp.195-203日本健康教育学会(査読有). 3) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2017)「Sense of Coherence による精神的健康の予測可能性に関する検討— Big Five 性格特性との弁別性の観点から—」『パーソナリティ研究』, 第26巻2号, pp.160-162日本パーソナリティ心理学会(査読有). 4) Kurara Bannai, Taira Imanishi, & Kazuo Oishi (2017) “Agari responses during piano performances in Japanese professional and amateur piano players — Special reference to the differences of presence and absence of an audience —”, International Journal of Music and Performing Arts, 5 (2) pp. 1-7. (査読有). 5) 矢野康介, 木村駿介, 大石和男 (2017)「大学生における身体運動習慣と感覚感受性の関連」, 『体育学研究』第62巻, pp.587-598 日本体育学会(査読有). 6) Kosuke Yano & Kazuo Oishi (2018) “The relationships among daily exercise, sensory-processing sensitivity, depressive tendency in Japanese university students”, Personality and Individual Differences, 127 pp.49-53. Elsevier (査読有).
学会発表	1) 矢野康介, 大石和男 (2017)「Highly sensitive person におけるライフスキルと抑うつ傾向の関連—非 Highly sensitive person との比較の観点から—」日本心理学会第81回大会(2017年9月20-22日, 於久留米大学, 福岡). 2) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2017)「パーソナリティのタイプによってストレス対処能力は異なるか—パーソナリティ・プロトタイプと Sense of Coherence の関係性—」日本パーソナリティ心理学会第26回大会,(2017年9月7-8日, 於東北文教大学, 山形). 3) 木村駿介, 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2017)「パーソナリティ傾向と食生活スタイルの採用傾向の関連について—パーソナリティ・プロトタイプによる分類を用いて」日本パーソナリティ心理学会第26回大会, 大会プログラム p.29, (2017年9月7-8日, 於東北文教大学, 山形). 4) 矢野康介, 大石和男 (2017)「Highly sensitive person における感覚処理感受性の特徴—クラスター分析を用いた探索的検討—」日本パーソナリティ心理学会第26回大会プログラム p.34 (2017年9月7-8日, 於東北文教大学, 山形).

学会発表	<p>5) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2017) 「攻撃性の高低によって個人的・対人的な行動や思考はどう変わるか—攻撃性の高い者と低い者のライフスキルの傾向に注目して—」日本社会心理学会第58回大会 (2017年10月28-29日, 広島大学, 広島).</p> <p>6) Kosuke Yano, Shunsuke Kimura, & Kazuo Oishi (2017) "Dose daily exercise moderate the effect of sensory-processing sensitivity on depressive tendency?" The 21th European College of Sports Science. Book of Abstract (July, 7-9, 2017).</p> <p>7) 坂内くらら, 今西 平, 大石和男 (2017) 「プロのピアノ奏者におけるあがり反応と演奏内容に対する主観的満足度—本番のリサイタル時に注目して—」日本生理人類学会第76回大会 (2017年11月18-19日, 於京都大学).</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 立教大学学生相談所長 2017年4月1日 - 2018年3月31日</p> <p>2) 健保会玉淀園主催講演会「職場での豊かな人間関係作り」於健保会玉淀園 2017年11月12日</p> <p>3) 内閣府認定非営利活動法人学生文化創造主催講演会「最近の学生の心理的特徴と学生支援の課題」於国立オリンピック記念青少年総合センター 2017年11月16日</p>

氏名・専門領域	大山 早紀子 ●精神保健福祉領域
著書	<p>1) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (2017) 『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2018』中央法規出版株式会社. (分担執筆)</p> <p>2) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (2017) 『精神保健福祉士国家試験過去問解説集2018』中央法規出版株式会社. (分担執筆)</p>
資料・研究ノート等	一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2016) 「平成28年度精神保健福祉士全国統一模擬試験 2016 精神保健福祉相談援助の基盤」.
学会発表	<p>1) リカバリー全国フォーラム2017「活用しよう精神科デイケア! リカバリーを目指していくときの精神科デイケアのつかいかた」(2017年8月, 東京).</p> <p>2) 大山早紀子, 木村尚美 精神障害者リハビリテーション学会 第25回久留米大会「デイケアとアウトリーチ統合における社会参加へ向けてのアプローチ〜誰でも地域で暮らせる社会を目指して〜」(2017年12月, 福岡).</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) NPO法人川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会 地域活動支援センター窓の会 アドバイザー</p> <p>2) 文部科学省科学研究費補助金若手研究B「重度精神障害者を対象とした精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラムの効果評価」(平成27年度~平成29年度), 研究代表者. 研究課題番号15K17227)</p>

氏名・専門領域	岡田 哲郎 ●地域福祉, コミュニティワーク, 民俗としての福祉論
著書	岡田哲郎 (2018) 「地域を基盤としたソーシャルワーク」金子光一編『Nブックス新版 社会福祉概論 [第2版]』建帛社.
資料・研究ノート等	<p>1) 岡田哲郎 (2017) 「書評 小山剛の拓いた社会福祉 (荻野 浩基編 社会福祉法人長岡福祉協会編集協力)」『地域福祉研究』No. 5 (通算No.45), pp.127-128 公益財団法人日本生命済生会.</p> <p>2) 立教大学コミュニティ福祉学部岡田哲郎ゼミ (2018) 「高島再発見! プロジェクト『高島プロジェクト』の再活性化に向けて—2017年度コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト報告書」.</p>

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本社会福祉学会関東部会運営委員会運営委員 2) ふじみ野市地域福祉計画審議会副会長 3) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会運営委員 4) コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト「高島再発見！プロジェクトー『高島プロジェクト』の再活性化に向けてー」 5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会主催「平成29年度地域の宝探しワークショップ」ファシリテーター 6) 東京都社会福祉協議会主催社会福祉士国家試験対策講座「地域福祉」講師 7) 品川区社会福祉協議会職員研修「我が事・丸ごと地域共生のまちづくり～人がつながるしくみを作るには～」講師 8) 本庄市社会福祉協議会主催「おとなボランティアスクール」講師 9) 社会福祉法人横浜共生会障がい者支援施設花みずき主催「花みずきのわかりやすい学習会 はじめての地域アセスメント」講師 10) 鴻巣市社会福祉協議会主催「おとな大学ボランティア学科」講師 11) 鴻巣市社会福祉協議会成年後見運営委員会運営委員 12) 鴻巣市社会福祉協議会主催「平成29年度地域福祉研修会 地域の支え合いの大切さ」講師 13) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクトメンバー（学生支援担当） 14) 日本福祉介護情報学会「2017年度研究・実践企画奨励助成」採択（テーマ：地域活動における個人情報の保護と活用の在り方～2つの現場におけるアクションリサーチを通して～）
-----------------	--

氏名・専門領域	岡 桃子 ●子ども家庭福祉、子育て支援におけるコミュニティ・アプローチ、児童虐待における予防的介入
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教女学院短期大学非常勤講師「児童福祉実践論」 2) 日本福祉大学非常勤講師「相談援助演習1・2」 3) NPO法人湘南遊映坐理事、事務局長、復興支援事業担当（熊本県南阿蘇村応急仮設住宅、立野学童保育所等） 4) 子どもの虹研修センター研究「非行と虐待」調査協力 5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会地域ささえあいネット「当事者の立場から、地域の子育て支援について考える」講師（2018年2月6日）

氏名・専門領域	河東 仁 ●宗教学宗教学史学、地誌学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 河東仁（2018.3）「文化政策における地域資源の『活用』について」『宗教研究』91号別冊（大会紀要）pp.145-146、日本宗教学会。 2) 山田親義、河東仁（2018.3）「自治体における国有財産譲与図面の取り扱い」『法政地理』第50号、pp.29-40、法政大学。
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 弓山達也、君島彩子、河東仁、吉水岳彦、山本佳世子（パネル発表）「関与型研究の可能性と課題」第76回日本宗教学会大会、東京、9月。 2) 山田親義、河東仁、田中恭子（ポスター発表）「地方自治体における国有財産譲与図面の電子データ化の現状」日本地理学会春季大会、東京、3月。
学内・学外における社会的活動等	山形県立高島高校における特別授業（11月28-29日）

氏名・専門領域	木下 武徳 ●社会福祉政策
著書	1) 木下武徳, 吉田健三, 加藤美穂子編 (2017)『日本の社会保障システム—理念とデザイン』東京大学出版会. 2) 木下武徳 (2017)「生活困窮者自立支援制度」渋谷哲編『低所得者への支援と生活保護制度 第4版』pp.178-184, みらい社.
論文	1) 木下武徳 (2017)「貧困下におかれた女性の支援—自治体の取り組みのあり方—」『住民と自治』652号, pp.6-9, 自治体問題研究所. 2) 木下武徳 (2018)「アメリカにおける法的支援と公的扶助—法的支援法人とLegal Services NYC—」『コミュニティ福祉学部紀要』20号, pp.59-75, 立教大学.
資料・研究ノート等	1) 木下武徳 (2017)「手話通訳事業の課題と運動の方向性」『手話通訳問題研究』140号 (夏号), pp.31-33, 全国手話通訳問題研究会. 2) 木下武徳 (2017)「書評 竹信三恵子著『正規社員崩壊』朝日新書」『北海道新聞』2017年6月18日掲載. 3) 木下武徳 (2017)「熊本地震での聴覚障害者対象第一次調査結果報告—熊本地震1カ月後の聴覚障害者の暮らしの課題— 一次聞き取り調査より」「第2次調査結果報告から見えてきた課題」聴覚障害者災害救援本部『熊本地震聴覚障害者救援活動報告書』年9月1日, pp.61-68, 86-88. 4) 奥野英子, 木下武徳 (2018)「障害者福祉の基礎知識」『第29回手話通訳技能認定試験 (手話通訳士試験) 模範解答集』木下担当分 pp.3, 15-30, 日本手話通訳士協会. 5) 木下武徳 (2018)「障害者権利条約と障害者差別解消法」『手話通訳者の学会2017福祉』全国手話通訳研修センター, pp.43-82.
学会発表	木下武徳 (2017)「アメリカ型福祉国家におけるNPO・社会的企業の位置」第51回アメリカ学会年次大会, 東京, 6月.

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学、持続可能な福祉コミュニティ論
論文	1) 空閑厚樹 (2017)「持続可能なコミュニティと「メタ・ファシリテーション」—「なぜ質問」から考える創造的なコミュニケーションのあり方—」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, pp.105-118. 2) SATO, Futoshi KITAJIMA, Kenichi KUGA, Atsuki (2018) "Seeking alternative lifestyles via international exchange", <i>Bulletin of the College of Community and Human Services Rikkyo (St. Paul's) University</i> , Number 20, pp.107-121.
資料・研究ノート等	空閑厚樹 (2017)「いのちへの配慮とコミュニティ (14)」『シンビオーシス』84号, pp.10-12 NGO 地に平和.
学会発表	空閑厚樹 (2017)「「なぜ」という問いを支えるコミュニティ」第45回上智人間学会, 岡山, 9月.
学内・学外における社会的活動等	埼玉県中山間地域活性化事業 中山間「ふるさと支援隊」実施

氏名・専門領域	小長井 賀與 ●司法福祉, 犯罪社会学
論文	1) 小長井賀與 (2017)「司法福祉の観点から 地域生活定着促進事業の成果と課題」『触法障害者の地域生活支援』, pp.84-97, 金剛出版. 2) 小長井賀與 (2017)「オランダ」(ヨーロッパの社会内処遇)『世界の保護観察』, pp.53-56, 第3回世界保護観察会議実行委員会. 3) 小長井賀與 (2017)「犯罪者処遇論から見た保護司の機能と意義」『世界の保

論文	<p>護観察」, pp.109-123, 第3回世界保護観察会議実行委員会.</p> <p>4) Kayo Konagai (2017) "The Role and Significance of Volunteer Probation Officers from the Viewpoint of Offender Treatment Theories", Volunteer Probation Officers and Offenders Rehabilitation, pp.38-57, The Third World Congress on Probation Organizing Committee</p>
学会発表	<p>1) 小長井賀與 (2017) (大会企画シンポジウムのシンポジスト)「被害者の包摂と回復, 並びに加害者の再統合」第28回日本被害者学会大会, 京都, 6月.</p> <p>2) 小長井賀與, 村田輝夫, 古川隆司, 今野由紀, 白井郁夫 (2017) (大会企画シンポジウムの企画・司会)「生きづらさを抱える高齢者の社会統合 ~ 司法福祉の観点から考える~」第18回日本司法福祉学会大会, 東京, 9月.</p> <p>3) Kayo KONAGAI (2017)「A Study on Support for the Reintegration into Society of Japanese Offenders and Community Partnership」The third World Congress on Probation, 東京, 9月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) オランダ・ライデン大学人文学部社会史研究所客員研究員 (2017年10月1日から2018年3月31日まで)</p> <p>2) 日本司法福祉学会理事・司法福祉学会誌「司法福祉学研究」編集委員長</p> <p>3) 日本犯罪社会学会理事</p> <p>4) 日本更生保護学会常務理事</p> <p>5) 更生保護法人・全国更生保護法人連盟評議員</p> <p>6) 更生保護法人・更生保護振興財団評議員</p> <p>7) 保護司月間研修誌「更生保護」編集委員</p> <p>8) 早稲田大学社会安全政策研究所招聘研究員</p>

氏名・専門領域	権安理 ●公共哲学, 社会学
著書	権安理 (2018)『公共的なるもの——アーレントと戦後日本』作品社.
論文	権安理 (2017)「共通世界としての公共性——アーレントの共通世界と21世紀における公共性の可能性」『経済社会学会年報』vol.39, pp.14-23.
学会発表	権安理 (2017)「『活動の領域としての公共空間』の再検討——アーレントの思想における社会学的可能性をめぐって」第90回日本社会学会大会, 東京.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト (いわき拠点)</p> <p>2) 新座市内大学公開講座「廃校を活用する——甦る学校」講師</p>

氏名・専門領域	斉藤知洋 ●計量社会学, 社会階層論, 家族社会学
論文	<p>【査読有】</p> <p>1) 斉藤知洋 (2017)「子どもの貧困と中学生の教育期待形成」『社会学年報』第46号, pp.127-138.</p> <p>【査読無】</p> <p>2) 斉藤知洋 (2018)「ひとり親世帯の形成と社会階層」荒牧草平編『2015年SSM調査報告書2 人口・家族』2015年SSM調査研究会: pp.121-139.</p> <p>3) 斉藤知洋 (2018)「母子世帯の子どもと職業達成」荒牧草平編『2015年SSM調査報告書2 人口・家族』2015年SSM調査研究会: pp.141-157.</p> <p>4) 斉藤知洋 (2018)「若年・壮年層の貧困動態とライフコース」東京大学社会科学附属社会調査・データアーカイブ研究センター編『2016年度課題公募型二次分析研究会 就労・家族・意識の変化に関するパネルデータ分析研究成果報告書』第64号, pp.96-118.</p> <p>5) 三輪哲・斉藤知洋 (2018)「職業評定にかんする時点間安定性の再検討」元</p>

論文	<p>治恵子編『雇用多様化社会における社会的地位の測定』日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書：pp.30-40.</p> <p>【その他】</p> <p>6) 斉藤知洋（2017）『パネルデータの調査と分析・入門（筒井淳也・水落正明・保田時男編）』『季刊家計経済研究』第113号：pp.98-99.（文献紹介）</p>
学会発表	<p>【国内】</p> <p>1) 斉藤知洋（2017）「子ども期の家族構造と学業達成の国際比較」東北社会学会第64回大会，仙台市，7月.</p> <p>2) 斉藤知洋（2018）「家族研究におけるダイアド・データの応用可能性と課題」二次分析研究会2017参加公募型研究成果報告会，東京都文京区，2月.</p> <p>【国外】</p> <p>3) Tomohiro SAITO（2017）“Single-Parent Family and Academic Achievement in Japan: A Comparative Analysis of Students in OECD Countries.” <i>The 10th International Conference of Asia Scholars</i>, Chiang Mai, Thailand, July.</p>

氏名・専門領域	阪口 毅 ●都市社会学，地域社会学，コミュニティ論
論文	阪口毅（2017）『「都市エスニシティ」論以降のコミュニティ研究——『場所』と『出来事』の比較研究序説』『中央大学社会科学研究所年報』Vol.21, pp.117-140.
学会発表	<p>1) 阪口毅（2017）「コミュニティの移動性と領域性——インナーシティにおける『集約的な出来事』の比較分析」地域社会学会第42回大会，秋田，5月.</p> <p>2) 室井研二，新田目夏実，菱山宏輔，阪口毅，黒田由彦，佐藤裕（2017）シンポジウム「コミュニティ論のモダンパラダイム再考——日本の近代とアジアの現代」日本都市社会学会第35回大会，東京，9月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 市民グループ共住懇事務局</p> <p>2) 北区多文化共生指針検討会事務局アドバイザー</p> <p>3) 北区政策課題研究会ROSEアドバイザー</p>

氏名・専門領域	三本松 政之 ●福祉社会学
著書	三本松政之（2017）「概説 変容するエスニック・コミュニティ」『概説 福祉とコミュニティ』伊藤守，小泉秀樹，三本松政之，似田貝香門，橋本和孝，長谷部弘，日高昭夫，吉原直樹編『コミュニティ事典』春風社.
論文	三本松政之（2017）「社会的弱者とはいかなる存在か」『教育と医学』768号，pp.12-19.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 日本社会福祉学会学会賞審査委員</p> <p>2) 科研費助成事業 基盤研究（B）海外学術「韓国の社会的パルネラブルクラス支援にみる実践変革型コミュニティ形成に関する研究」研究代表者（2015年度-2017年度）</p> <p>3) 葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長</p>

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会学，社会保障論
著書	<p>1) 社会保障政策研究会・芝田英昭編著（2017）『高齢期社会保障改革を問う』自治体研究社.</p> <p>2) 芝田英昭（2017）「社会保障制度基盤の崩壊を招く『我が事・丸ごと』地域共生社会の本質」日本婦人団体連合会編『女性白書2017』ほるぷ出版.</p>

論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 芝田英昭 (2017) 「国民監視国家と親和性のある「地域共生社会」下の社会保障運動」『隔月刊社会保障』第475号, pp.5-15 中央社会保障推進協議会. 2) 芝田英昭 (2017) 「『地域共生社会』の批判的検討」『国民医療』No.338, pp.1- 8 日本医療総合研究所. 3) 芝田英昭 (2017) 「2017年医療保険制度等改定の論点と「我が事・丸ごと」地域共生社会の本質」『民医連医療』No.539, pp.6-13 全日本民主医療機関連合会. 4) 芝田英昭 (2017) 「高齢期を直撃する社会保障解体～医療介護改革の本質を読み解く～(上)」『ゆたかなくらし』No.420, pp.10-15 全国老人福祉問題研究会. 5) 芝田英昭 (2017) 「高齢期を直撃する社会保障解体～医療介護改革の本質を読み解く～(中)」『ゆたかなくらし』No.421, pp.12-17 全国老人福祉問題研究会. 6) 芝田英昭 (2017) 「高齢期を直撃する社会保障解体～医療介護改革の本質を読み解く～(下)」『ゆたかなくらし』No.422, pp.26-32 全国老人福祉問題研究会. 7) 芝田英昭 (2017) 「『我が事・丸ごと』地域共生社会が、医療・介護をどう変質させるか」『医療福祉政策研究』第1巻第1号, pp.7-22 日本医療福祉政策学会. 8) 芝田英昭 (2017) 「社会保障制度基盤を揺るがす『改革』-『地域共生社会』で強調される自助・共助」『住民と自治』通刊651号, pp.6-10 自治体研究社問題研究所. 9) 芝田英昭 (2017) 「ニュージーランドにおける『深刻な住居剥奪』と『ハウジング・ファースト』」『コミュニティ福祉学部紀要』第20号, pp.19-44.
資料・研究ノート等	<ul style="list-style-type: none"> ・研究ノート <ol style="list-style-type: none"> 1) 芝田英昭 (2017) 「小さな国ニュージーランドは、かくも面白い」『まなびあい』第10号, pp.151-171. ・新聞 <ol style="list-style-type: none"> 1) 芝田英昭 (2017) 「『子ども保険』の狙いを見抜く」『全国保険医新聞』2017年8月25日付, p.3 全国保険医団体連合会. 2) 芝田英昭 (2017) 「社会保障制度基盤の崩壊を招く『我が事・丸ごと』地域共生社会の本質」『宮城保険医新聞』2017年6月15日付, p.3 宮城県保険医協会. ・書評 <ol style="list-style-type: none"> 1) 芝田英昭 (2017) 「書評：近藤克則著『健康格差社会への処方箋』」『経済』N0.264, pp.96-97 新日本出版社.
学内・学外における社会的活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・学内 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全学入試作問採点委員長 2) 弓道部部长 ・学外 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本医療福祉政策学会幹事 2) 自治体問題研究所理事 3) 全国老人福祉問題研究会運営委員 4) 埼玉県社会保障推進協議会副会長 5) 医療生協さいたま社会貢献委員 6) 日本社会保障政策研究会主宰

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学, 健康栄養学
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2018) 「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール' 18』大修館書店. 2) 杉浦克己 (2018) DVD 『VOL. 3 食事と健康』『わたしたちのからだと健康 第3版』医学映像教育センター.

論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2017) 「東日本大震災被災者の栄養摂取状況 (第2報) 仮設住宅から公営住宅へ」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.39-47 立教大学. 2) 杉浦克己 (2017) 「第3回 パフォーマンスを上げる食事, 栄養の話」『臨床スポーツ医学』vol.34, pp.294-300. 3) Kobayashi A., Kan, Y., Sugiura K., (2017) "The effects of sports nutritional support on rowing performance of elite college rowers" ,<i>J Physical Fitness Sport Med</i>, vol.6, p.474. 4) Inoue Y. and Sugiura, K., (2017) "The effects of sports nutritional support on behavior of eating and on psychological competitive ability of college tennis players" ,<i>J Physical Fitness Sport Med</i>, vol.6, p.535. 5) 杉浦克己 (2018) 「女性スポーツと栄養 (後編)」『JATI EXPRESS』63号, pp.8-9. 6) 杉浦克己 (2017) 「女性スポーツと栄養 (前編)」『JATI EXPRESS』62号, pp.12-13. 7) 杉浦克己 (2017) 「プロバイオティクスとプレバイオティクス」『JATI EXPRESS』61号, pp.8-9. 8) 杉浦克己 (2017) 「ラベルを読む」『JATI EXPRESS』60号, pp.8-9. 9) 杉浦克己 (2017) 「スポーツ栄養学的観点からみた疲労」『JATI EXPRESS』59号, pp.24-25. 10) 杉浦克己 (2017) 「食品のラベルを読む」『JATI EXPRESS』58号, pp.8-10.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2018) 「筋トレ女子 ハード志向」『読賣新聞』2018年3月13日. 2) 杉浦克己 (2017) 「セロトニンを含む食材」『季刊いただきます ごちそうさま』61号, p.42, NPO法人キッズエクスペス21. 3) 杉浦克己 (2017) 「My Life My Golf」『ゴルフトゥーデイ』2017年4月号, pp.82-84. 4) 杉浦克己 (2017) 「牛乳と卵はサプリメントだった!? ~1964年東京オリンピックの栄養強化策~」『健康食品コラム』(財)医療経済研究・社会保険福祉協会.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小林あやか, 菅泰夫, 杉浦克己 (2017) 「大学ボート競技における栄養面からのコンディショニングサポート」第72回日本体力医学会大会, 松山, 9月. 2) 井上陽, 杉浦克己 (2017) 「栄養サポートによる大学テニス選手の食行動・意識の変化と心理的競技能力への影響」第72回日本体力医学会大会, 松山, 9月. 3) 加藤健志, 酒井健介, 杉浦克己 (2017) 「世界を獲ったコーチング~金メダリストコーチの考え方」第2回ウエルネスフードジャパン, 東京, 7月.
学内・学外における社会的活動等	<p>(学外委員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) (公財) 日本バレーボール協会 ニュートリションユニット長 2) (公財) 日本陸上競技連盟 「サプリメントに関する会議」委員 3) 日本体力医学会 評議員 4) 新座市 健康づくり推進協議会委員 5) 新座市民総合大学 健康増進学部 健康づくり学科コーディネーター 6) NPO法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与 7) 第2回ウエルネスフードジャパン実行委員 8) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 公認指導員認定講習会講師 9) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会講師 <p>(学内活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学コミュニティ福祉研究所 所長 2) 立教大学ウエルネス研究所 所員 3) 立教大学体育会拳法部 部長

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論
論文	Yayoi, Suzuki, Kazuhiko, Sato and Zane, Ritchie (November, 2017) <i>A Study on the living conditions of Bangladeshi migrants in New York City</i> 『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』立教大学コミュニティ福祉研究所, Vol. 5, pp.69-89.
資料・研究ノート等	1) 鈴木弥生 (2007年11月) 「アラブ首長国連邦における子どものラクダ騎手: その背景と解放への道のり」『まなびあい』立教大学コミュニティ福祉研究所, 第10号, 172-180頁。 2) 鈴木弥生 「受賞の言葉」国際開発学会『国際開発学会ニューズレター』Vol.29, No.1 (通刊第107号) 2018年2月1日発行, 8-9頁。
学内・学外における社会的活動等	1) 海外研究のため, コロンビア大学の客員研究員としてニューヨーク市に一年間滞在。 2) 文部科学省科学研究費基盤研究C 「グローバル化と国際労働移動: バングラデシュ女性労働者の実態調査」(研究代表者: 鈴木弥生 [2014~2017年度]) による現地での文献や資料収集と実態調査および研究成果報告書の提出。 3) 2017年度国際開発学会奨励賞受賞 (拙著『バングラデシュ農村にみる外国援助と社会開発』日本評論社, 2016年 (日本学術振興会 2015年度 科学研究費助成 [研究成果公開促進費: 学術図書])。) 4) 鈴木弥生 「コメント」2018年1月30日。 コミュニティ福祉学部の鈴木弥生教授が「国際開発学会奨励賞」(http://www.rikkyo.ac.jp/news/2018/01/mknpps000000czw1.html)。 5) 鈴木弥生 (コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科) 「受賞によせて」(http://chs.rikkyo.ac.jp/topics/2018/3872/)。

氏名・専門領域	田中 悠美子 ●高齢者福祉, 認知症ケア
学会発表	1) 田中悠美子 (2017) 「若年性認知症の親を持つ子ども世代の集う場の創出とその意義—4年間の活動実績とそこから見えてきた課題—」第18回日本認知症ケア学会, 沖縄, 5月。 2) 澁谷智子, 松崎実穂, 濱島淑恵, 田中悠美子 (2017) 「ヤングケアラーに関する小中学校教員の認識」日本社会福祉学会, 東京, 10月。 3) 奈良環, 田中悠美子 (2018) 「福祉専門職教育に求められる書く力に関する一考察 授業後のリアクションペーパーを題材にした内容分析の試み」第24回日本介護福祉教育学会, 埼玉, 2月。

氏名・専門領域	富田 文子 ●職業リハビリテーション, 障害者福祉論
著書	1) 富田文子 (2017) 「就労支援サービス第145問・第146問」『2018社会福祉士過去問題解説集』, pp.186-187, 中央法規出版。 2) 富田文子編 (2017) 「障がいのある方の支援者向け 就労支援施設ガイド 大田区ジョブブック」『2017年度立教大学コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト 支援者向け大田区障がい者就労支援施設ガイドブック作成プロジェクト実行委員会』立教大学。
論文	富田文子 (2017) 「自治体職員としての就労支援とネットワーク構築による地域支援を振り返る」『職業リハビリテーション』第31巻1号, pp.15-23, 協文社。(査読無)
資料・研究ノート等	1) 富田文子 (2017) 「視覚障害者に対する福祉分野の就労支援に関する再考—国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局函館視力センターの訪問調査を通して—」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第20号, pp.123-

資料・研究ノート等	126, 立教大学. 2) 富田文子 (2017) 「平成30年度社会福祉士社会福祉士全国統一模試試験 就労支援サービス第143問・第144問」『一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟』主催, pp.38-39, 中央法規出版.
学会発表	富田文子 (2017) 「居住地域における多様な就労形態の検討に向けた企業実習の意義と構造—東京都大田区の「職場体験実習」実行委員会の実践から—」日本職業リハビリテーション学会第45回大会, 栃木, 8月.
学内・学外における社会的活動等	<p>(社会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大田区自立支援協議会 就労支援専門部会委員 2) 大田区就労支援協力員 3) 大田区就労移行支援事業所連絡会委員 4) さいたま障害者就業サポート研究会事務局員 5) 平成29年度社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格支援委員 6) MCSハートフルA株式会社 (就労継続支援A型) 第三者委員 7) 障害年金法研究会 障害年金事例検討会拡大運営委員 <p>(講演)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第39回大田区障害者就労促進懇談会「大田区における就労支援事業所連絡会の展開—事業所間連携による就労支援ネットワークの構築—」(単独), 2017年12月5日. 2) 就労移行支援事業所ウェルビー主催 就労フォーラム2017「ときめく恋愛について—就労定着の原動力として—」(共担), 2017年12月2日 <p>(研究活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 (基盤研究C) 「重度障害者に対する社会支援に基づく多様な就労形態に関する研究」, 研究委員会委員 (代表研究者: 埼玉県立大学 朝日雅也), 2015-2017年度. 2) 大田区役所・立教大学 共同研究契約締結 (2017年4月1日～) 研究代表者

氏名・専門領域	外山 公美 ●行政学, 政策学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外山公美 (2017) 「総合区へのシティ・マネージャー職理念の導入可能性」『季刊行政管理研究』第158号, pp.4-20, (一財) 行政管理研究センター. 2) 外山公美・西村好恵 (2017) 「わが国における町村総会制度の変遷と課題」『季刊行政管理研究』第160号, pp.32-45, (一財) 行政管理研究センター. 3) 外山公美 (2018) 「ニューイングランドにおける住民総会制度の思想と展開」『桜文論叢』第96巻, pp.583-607, 日本大学. 4) 外山公美 (2018) 「マサチューセッツ州の住民総会」『経済学論纂』第58巻 3・4合併号, pp.121-137 中央大学.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本オンブズマン学会理事長 3) 日本法政学会事務局長 4) 日本地方政治学会理事 5) 日本協働政策学会理事・企画委員長 6) 日本行政学会監事 7) 港区情報公開運営審議会会長 8) 豊島区入札監視委員会委員長 9) 豊島区政策評価委員会副委員長 10) NPO法人政策マネジメント研究所理事長 11) 一般財団法人行政管理研究センター理事

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 長倉真寿美 (2017) 「居宅4サービス利用指数の保険者間格差と居宅4サービス利用指数『高』及び3施設+居住系サービス利用指数『低』の保険者の地域ケアシステムの特徴」『コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, コミュニティ福祉研究所. 2) 長倉真寿美 (2017) 「人生はこれからーリタイアメントを楽しむ社会ー」『Sexuality』No.81, エイデル研究所.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員 4) (公財) いきいき埼玉 彩の国いきがい大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター 5) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト(石巻市) 6) 新座キャンパス福祉学講座講師 7) 社会福祉士国家試験委員 8) 社会福祉法人至誠学舎評議員

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス
著書	星野道夫の神話(コスモス・ライブラリー)
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Effects of outdoor activities on the sense of spirituality examined from differences between outdoor activities and competitive sports. 2) 22th European College of Sport Science, Database (http://www.ecss.de/ASP/EDSS/C22/22-0201.pdf) (2017) 3) 「プラネタリウム体験が人の心理状態やスピリチュアリティへ及ぼす影響」日本トランスパーソナル心理学/精神医学会第18回学術大会誌 pp. 10-11 (2018)
学内・学外における社会的活動等	シンポジウム『日本の約束』(立教大学) 2017年12月10日

氏名・専門領域	西田 恵子 ●地域福祉論
資料・研究ノート等	西田恵子 (2017) 「インフォーマルケア」, 「孤立死」, 「災害ボランティア」, 「住民懇談会」, 「住民自治」, 「地域福祉活動計画」, 「地縁型組織」, 「地区社会福祉協議会」, 「コミュニティワーカー」社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書2018 学びを深める福祉キーワード集』全国社会福祉協議会.
学会発表	西田恵子 (2017) 「第2次世界大戦後混乱期のドイツに対する民間救援活動ーCRALOGとLARAの共通性と差異ー」日本社会福祉学会, 東京, 10月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「ララ救援物資と戦後福祉改革期の公使協働に関わる総合的な研究」研究代表者 (2014-2017年度) 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「養老院・養老施設の経営・運営と処遇(ケア)の質に関する研究」岡本多喜子研究代表者 研究分担者 (2016-2020年度) 3) 東海村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会委員長 4) 高島町地域福祉計画・地域福祉活動計画に係るニーズ調査の監督・指導 5) 陸前高田市介護人材育成業務助言・指導 6) 東海村社会福祉協議会研修「地域福祉活動計画」 7) 高島町・立教大学交流連続講座「あなたの居場所が未来につながる～高島で考える地域福祉のエッセンス～」 8) 陸前高田市暮らしささえ隊養成講座「福祉のまちづくり事例」 9) 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 社会福祉主事講習「社会福祉概論」

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●運動方法学, コーチング論
資料・研究ノート等	沼澤秀雄 (2018)「大学でのスポーツ教育の役割」『大学教育研究フォーラム』立教大学 全学共通カリキュラム運営センター, pp.6-17.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Hakamada, N., Numazawa, H. (2017)「MORPHOLOGICAL CHARACTERISTICS OF SPORT CLIMBER」the 22th annual congress ECSS MetropolisRuhr. 2) 森健一, 小林敬和, 沼澤秀雄, 井筒紫乃 (2017)「世界共通のキッズ「走・跳・投」プログラムに参加した児童の運動に対する意識調査」第47回日本レジャー・レクリエーション学会大会, 沖縄, 12月. 3) 鈴木秀雄, 前橋明, 沼澤秀雄, 田中光, 宮本雄司 (2017)「パカブによる森林を利用した遊びの展開」第47回日本レジャー・レクリエーション学会大会, 沖縄, 12月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本レジャー・レクリエーション学会 副会長 2) 日本陸上競技連盟普及・育成委員会 指導者養成部長 3) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 4) 日本キッズアスレティックス協会理事 5) 大学スポーツライミング協会 副会長 6) 日本陸上競技連盟公認コーチ, U13クリニック, U16クリニック, 指導者講習会講師 7) IAAF CECS Level1 講師 8) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 9) 日本サッカー協会指導者育成講習会S級, A級U12講師 10) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, NPO
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 逸見敏郎, 原田晃樹, 藤枝聡編著『リベラルアートとしてのサービスラーニング—シティズンシップを耕す教育—』北樹出版, 2017年, p.208, (第7章・おわりにに担当). 2) 原田晃樹, 杉岡秀紀編著 (2017)『合併しなかった自治体の実際』公人の友社, p.176, (序章・第3章担当).
論文	原田晃樹「行政サービス撤退・公的資金削減後の公的サービス供給のあり方」『地方自治職員研修』50巻10号, pp.12-14.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Kohki Harada “The characteristics of Japanese social enterprises in rural areas: Research on the infrastructure organisations of WISEs”, 6th EMES International Research Conference on Social Enterprise (Université Catholique de Louvain, Belgium) 2) 原田晃樹「農山村地域のコミュニティ・ビジネスによる自治の基盤形成」(2017年度NPO学会第19回大会一般セッション『中間支援組織調査を通して見た日本の労働統合型社会的企業の展開と課題』2017年5月14日東京学芸大学) 3) 原田晃樹「農村地域における社会的企業の可能性」(2017年度日本協同組合学会第37回秋季大会, 2017年9月23日徳島大学) 4) 日本地方自治学会分科会Ⅲ「公募セッション(自由論題)」(2017年11月19日専修大学) コメンテーター

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 四日市市行財政改革推進会議会長 2) 新座市子ども子育て会議会長 3) 豊島区南大塚保育園運営委員会委員 4) 社会福祉法人ふきのとう評議委員 5) 特定非営利活動法人地域ケア政策ネットワーク「地域コミュニティの新たなあり方検討委員会」(座長：大森彌) 委員 6) 公益法人協会「社会的企業研究会」委員 7) 公益財団法人地方自治総合研究所「格差是正と地方自治研究会」委員 8) 大日本印刷株式会社委託研究調査「地方自治体窓口申請手続きの情報化」受託 9) 社会的企業研究会会長代行 10) 立教大学サービスラーニングセンター長
-----------------	--

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO 論
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 原田峻, 西城戸誠 (2017)「東日本大震災・福島原発事故から7年目を迎えた広域避難の現状と課題——埼玉県における自治体・避難者調査の知見から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, pp.51-67. 2) 原田峻 (2018)「NPO法制定過程における立法運動の組織間連携——分野内／分野間の連携に着目して」『ノンプロフィット・レビュー』第17巻2号, pp.77-87. [査読有り]
資料・研究ノート等	原田峻, 西城戸誠監修 (2018)「福玉便り 2018春の号外」(http://fukutama.org/wp-content/uploads/2018/03/gougai2018.pdf)
学会発表	原田峻, 西城戸誠 (2017)「原発避難者支援のローカルガバナンス——埼玉県を事例として」日本社会学会第90回大会, 東京大学, 11月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクト I「県外避難者の人数とニーズの実態把握：埼玉県における自治体・避難者調査から」(平成29年度, 研究代表者) 2) 科学研究費補助金(若手研究(B))「超党派議員連盟と社会運動：ロビイングのイシュー横断的分析」(平成29～31年度, 研究代表者) 3) 科学研究費補助金(基盤研究(C))「『強いられた』コミュニティ再編を巡る復興支援と制度に関する比較研究」(平成27～29年度, 研究分担者) 4) 科学研究費補助金(基盤研究(A))「危機の時代の社会運動? 誰がなぜ反原発/反安保法制運動に参加するのか」(平成29～31年度, 研究分担者) 5) 関東社会学会 研究委員 (2015年7月～2017年7月) 6) パルシステム埼玉 東日本大震災復興支援助成金運営委員長 (2015年7月～) 7) 原田峻 (2017)「『支援』をめぐる調査者の立ち位置——埼玉県における原発避難者支援のフィールドから」愛知大学人文社会学研究所主催ワークショップ「社会調査の成果を社会に還元するために」, 愛知大学, 10月.

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉行財政, 公的扶助, 障害福祉政策
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平野方紹 (2018)「福祉行財政の実施体制」 蟻塚昌克, 関川芳孝編『社会福祉学習双書2018 社会福祉概論Ⅱ—福祉行財政と福祉計画/福祉サービスの組織と経営—』全国社会福祉協議会. 2) 平野方紹 (2018)「障害者の生活とニーズから見えてくるもの」 結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』 大月書店.
論文	平野方紹 (2017)「第4次障害者基本計画は何をを目指すのか—計画の何が変わったのか—」(単著)『ノーマライゼーション』第37巻第12号(通巻437号) pp.10-13 日本障害者リハビリテーション協会.

資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平野方紹 (2018) 「障害者自立支援制度およびその他の仕事」(単著)『介護職員初任者研修テキスト』中央法規出版. pp.172-174 2) 平野方紹 (2018) 「子どもと家族の暮らしに関する法と制度の理解と活用」(共著) 厚生労働省 平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童福祉司等の義務教育テキスト作成に関する調査研究」2018 (日本社会事業大学). 3) 厚生労働省 平成29年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業 「自治体の社会福祉行政職員の業務や役割及び組織体制等の実態に関する調査研究事業」 2018 (日本総研) 調査検討委員会 委員長.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学ボランティアセンター長 2) 内閣府障害者差別解消支援地域協議会の在り方検討会構成員 3) 厚生労働省障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザー 4) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討会副会長 5) 介護福祉士国家試験委員会副委員長 6) さいたま市障害者政策委員会委員長 7) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 8) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会委員 9) 川越市社会福祉審議会委員 10) 草加市障害者計画等策定委員会委員長 11) 新座市障がい者施策委員会委員長 12) 志木市自立支援協議会会長 13) 社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会評議員 14) 公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●社会的企業論, NPO 論
著書	藤井敦史「労働統合型社会的企業 (WISE) による社会的包摂の可能性と課題」, 五石敬路, 岩間伸之, 西岡正次, 櫛部武俊, 有田朗編『生活困窮者自立支援で社会を変える』法律文化社, pp.202-223, 2017年4月発行.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 藤井敦史「日本における社会的連帯経済の「連帯」を構築するための戦略を考える」, 協同組合学会新理論研究会 (招待講演) 2017年4月18日. 2) 藤井敦史, 原田晃樹, 久保ゆりえ, 菰田レエ也「中間支援組織調査を通して見た日本の労働統合型社会的企業の展開と課題」, 日本NPO学会パネル報告 (東京学芸大) 2017年5月14日. 3) Atsushi Fujii, Kohki Harada, Yurie Kumakura and Reeya Komoda “The comprehensive development process of Japanese WISEs, from the research of infrastructure organizations of WISEs”, 6th EMES International Research Conference on Social Enterprise (Université Catholique de Louvain, Belgium) . 2017年7月6日. 4) 藤井敦史「日本の労働統合型社会的企業の展開と課題—連帯経済の構築と中間支援組織」, 韓国全羅北道経済通商振興院・ソウル社会的経済支援センター (招待講演), 2017年8月22, 23日.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本NPO学会理事 2) NPO法人アジア太平洋資料センター (PARC) 理事 3) 生活クラブ生協神奈川ユニオン理事 4) 市民セクター政策機構理事 5) 社会的企業研究会会長

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学, スポーツプロモーション論
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松尾哲矢 (2017)「ブルデューの国家論とオリンピック・パラリンピック」(一社)日本体育学会編集『体育の科学』68: 47-54, 杏林書店. 2) 松尾哲矢 (2018)「運動部活動と学校生活, 学業, 対人関係, 社会的適応等との関連について」, 内藤久士他共著『運動部活動に関するスポーツ医・科学的調査研究報告』pp.40-43, 公益財団法人日本体育協会 スポーツ医・科学専門委員会. 3) 内藤久士, 春日晃章, 鈴木宏哉, 結所哲宏, 鄧鵬宇, 松尾哲矢, 青野博 (2018)『平成29年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅲ「国民の体力及び運動・生活習慣に関する日中共同研究—第1報」』pp.1-73, 公益財団法人日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松尾哲矢 (2017)「スポーツ参画人口の拡大に関する施策とスポーツ推進委員の役割」みんなのスポーツ, No.436: 18-20, 公益財団法人全国スポーツ推進委員連合. 2) 松尾哲矢 (2017)「「としまスポーツ応援団」への期待」『としまスポーツ応援団ガイドブック』(監修及び執筆) pp.25-26, 東京都豊島区学習・スポーツ課.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Muramoto Sotaro, Matsuo Tetsuya (2017) “The study of corporal punishment in school athletic clubs in Japan.”, 2017 World Congress of Sociology of Sport (ISSA: 国際スポーツ社会学会) (National Sport Univercity: Taoyuan City, Taiwan, 6月) 2) Nakayama Kenjiro, Matsuo Tetsuya (2017) “A study on the Dynamisms of High School Baseball “narratives” in Japan “, 2017World Congress of Sociology of Sport (ISSA: 国際スポーツ社会学会) (National Sport Univercity: Taoyuan City, Taiwan, 6月) 3) 山田力也, 松尾哲矢 (2017)「身体障害者スポーツ実施者からみたボランティアに対する意識及び関係性に関する研究」日本体育学会第68回大会, 静岡大学, 9月. 4) 中山健二郎, 松尾哲矢「高校生における「カーニヴァル」的メディア受容態度と伝統的「物語」の再生産に関する研究 —女子マネージャー制止問題の分析から—」日本体育学会第68回大会, 静岡大学, 9月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ庁 平成28年度体力・スポーツに関する世論調査の質問項目検討会 委員 2) スポーツ庁 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) フォローアップ 評価委員会 委員 3) スポーツ庁 健康スポーツ課 技術審査専門員 4) スポーツ庁 健康スポーツ課 地域における障害者スポーツ普及促進事業に係る 専門家 5) 東京都スポーツ振興審議会 委員 6) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 委員 7) (公財) 日本体育協会公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト 座長 8) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議 座長 9) (公財) 日本体育協会21世紀の国民スポーツ推進方策改定作業班会議 委員 10) (公財) 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会 委員 11) (公財) 日本体育協会国際専門委員会 委員 12) (公財) 日本レクリエーション協会 理事 13) (公財) 日本レクリエーション協会公認指導者資格認定委員会 委員 14) (一社) 日本体育学会 代議員 15) (一社) 日本体育学会 体育社会学専門領域 事務局長 16) 日本スポーツ社会学会 理事長 17) 日本レジャーレクリエーション学会 常任理事 18) 日本スポーツ産業学会 理事 19) 東京体育学会 理事

学内・学外における社会的活動等	20) スポーツ庁受託事業	公益財団法人日本レクリエーション協会 レクで学校丸ごと元気アップ事業 委員長
	21) スポーツ庁受託事業	公益財団法人日本レクリエーション協会 スポーツ医・科学等を活用した健康増進プロジェクト(スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康寿命延伸事業)協力者会議 委員長

氏名・専門領域	安松 幹展 ●運動生理学, フットボールサイエンス
資料・研究ノート等	安松幹展(2018), サッカーの科学的トレーニング3サッカーのゲームフィジカルパフォーマンス分析, 2018高校サッカー年鑑, (公財)全国高等学校体育連盟サッカー専門部編, pp.230-231, 講談社.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 安松幹展, 中村大輔, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 田名辺陽子, 塩瀬圭佑, 大家利之, 高橋英幸 (2017)「オリンピックサッカー競技の試合日程が脱水レベルとゲームフィジカルパフォーマンスに及ぼす影響」日本体力医学会, 愛媛, 9月. 2) 中村大輔, 安松幹展, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 田名辺陽子, 塩瀬圭佑, 大家利之, 星川雅子, 高橋英幸 (2017)「オリンピックサッカー競技の試合日程がゲームパフォーマンスおよびコンディションに与える影響」日本体力医学会, 愛媛, 9月. 3) 川田輝, 金田雄太, 安松幹展, 中川晃, 松長大祐, 石渡貴之 (2017)「長期間の明暗周期がラットの生理指標、不安様行動、脳内神経伝達物質に及ぼす影響」日本体力医学会, 愛媛, 9月. 4) 大室龍大, 飛田晃典, 松浦一樹, 安松幹展 (2017)「日本エリートフットサル選手の体力特性」日本体育学会, 静岡, 9月. 5) 安松幹展 (2017)「暑熱順化」, JISS暑熱対策セミナー「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた暑熱環境対策」, 東京, 7月. 6) Yasumatsu M. (2017) "Football in the heat", International Conference on Science and Football, Korea, 6月. 7) Nakamura, M., Nakamura, D., Yasumatsu, M., Tanabe, Y., Kondo, Y., Shiose, K., Ishibashi, A., Oya T., Ishii, Y., Hoshikawa, M., Takahashi H. (2017) "Effects of the Olympic match schedule on football performance, heart rate variability, and physical condition" ECSS, Germany, 6月. 8) Yasumatsu M., Nakamura D., Tanabe Y., Kondo Y., Shiose K., Ishibashi A., Oya T., Nakamura M., Ishii Y., Takahashi H. (2017) "Effects of the Olympic match schedule on football performance, dehydration level and muscle glycogen in hot environments" WCSS, France, 5月. 9) Nakamura D., Yasumatsu M., Tanabe Y., Kondo Y., Shiose K., Ishibashi A., Oya T., Nakamura M., Ishii Y., Hoshikawa M., Takahashi H. (2017) "The effects of Olympic simulated game schedule on mucosal immunity, muscle damage, inflammatory response, and sleep quality" WCSS, France, 5月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会評議員 2) 日本フットボール学会会長 3) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員 4) 国立スポーツ科学センタースポーツ・医科学事業研究分担者 5) アジアサッカー連盟フィットネスコーチインストラクター 6) (公財)日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 7) (公財)日本サッカー協会技術委員会技術委員会指導部会部員 8) (公財)埼玉県サッカー協会科学研究委員会委員

氏名・専門領域	山口 綾乃 ●Social Determinants of Health, Culture and Communication Education including Cultural Diversity, Multicultural Identity
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yamaguchi, A., Akutsu, S., Oshio, A., & Kim, M. (2017). "Effects of Cultural Orientation, Self-Esteem, and Collective Self-Esteem on Well-Being," <i>Psychological Studies</i>, 30 August, 1-9. 2) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2017). "Influences of Social Capital on Natural Disaster Research in Japan," <i>Journal of Sustainable Development</i>, 10 (3) , May 46-54. 3) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2017). "The role of anger regulation on perceived stress status and physical health." <i>Personality and Individual Difference</i>, 116, 240-245.
学会発表	Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2017). "Influences of Gratitude on Health Status in the United States and Japan," International Communication Association in San Diego, CA, Health Communication Division. (ICA) 5月.
学内・学外における社会的活動等	<p>(Research Awards and Contributions)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 独立行政法人日本学術振興会審査委員 2) National Communication Association (NCA) Paper Reviewer 論文審査委員 3) 国際共同研究：共著者、リーダー University of Hawaii at Manoa, Min-Sun Kim, Hitotsubashi University, Satoshi Akutsu, and Waseda University, Atsushi Oshio to use the national data sets (Midlife in the United States (MIDUS), Midlife in Japan (MIDJA)), which were produced by Carol D. Ryff of the University of Wisconsin-Madison, Shinobu Kitayama of the University of Michigan, Mayumi Karasawa of Tokyo Christian Woman's University, Hazel Markus of Stanford University, and Norito Kawakami of the University of Tokyo. Christopher Coe from the University of Wisconsin-Madison, US 4) Great Reputations National Institute on Aging in the U.S.やCarol D. Ryff from the University of Wisconsin-Madison教授より 5) Received Professional Comments and Suggestions from Ichiro Kawachi at the Public Health, Harvard University, US 6) 立教大学コミュニティ福祉研究所 海外派遣研究員 2017 7) Appointed Risk Management for Study Abroad Orientation, 07/2017, at the College of Community and Human Services at Rikkyo University, Japan Rikkyo University, Japan. 8) Appointed English Communication Education Strategies Plans 07/2017, at the College of Community and Human Services at Rikkyo University, Japan Rikkyo University, Japan 9) Appointed the Juror for the Super Global High School Presentation and Poster Session, 12/23/2017, as the representative at the College of Community and Human Services at Rikkyo University, Japan Rikkyo University, Japan. (Provided the Comments and Suggestions in English) 10) Appointed the professional consultants to provide professional advice and suggestions about the students about English communication such as TOEIC, TOEFL, IELTS, international internship and study abroad program from 2017 to until now

学内・学外における社会的活動等	<p>(Conference Members)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) International Communication Association (ICA) 2) National Communication Association (NCA) 3) 日本社会学会 4) Hawaii Sociological Association (HSA) 5) 日本保健医療社会学会 6) America Sociological Association (ASA) 7) Society for the Study of Social Problems (SSSP) 8) 日本コミュニケーション学会 <p>(Research Collaborations)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11) Cross-Cultural Health and Well-Being: Research Project Partner and Research Collaborator (米国ハワイ大学, 米国イーストウエストセンター, 一橋大学, 早稲田大学) 12) Midlife in the U.S. (MIDUS) and Midlife in Japan (MIDJA) Research Project Partner (ミシガン大学, ウィスコンシン大学, スタンフォード大学, 東京大学, 東京女子大学) 13) Global Health Innovation Policy Program (GHIPP) Partner (政策研究大学院大学) 14) Social Capital Research Project Partner (ハーバード大学など) 15) Self-Compassion, Mindfulness, and Well-Being Research Project Partner (Oxford University オクスフォード大学など) 16) 科学研究費助成事業 (基盤研究C) “Effects of Personality Traits and Self-Construals on Life Orientations” 研究代表者
-----------------	--

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論, 福祉文化論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2018)「障害福祉学の基本となるもの」結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店. 2) 結城俊哉 (2018)「障害者の自立生活運動と当事者支援」結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店. 3) 結城俊哉 (2018)「学びの展開①障害者虐待について考える」結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店. 4) 結城俊哉 (2018)「学びの展開②災害と障害者支援」結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店. 5) 結城俊哉 (2018)「学びの展開③障害者のアート活動と社会参加」結城俊哉編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店. 6) 結城俊哉 (2018)「ホームレス及び貧困問題と精神保健」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『第2巻 精神保健の課題と支援 (第3版)』中央法規出版.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2017)「障害者虐待と優生思想に抗する障害者福祉学の課題～障害者虐待と相模原障害者殺傷事件からの問い」『コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, pp.1-18 立教大学. 2) 結城俊哉 (2017)「虐待問題と『いじめの政治学』～障害者虐待と「臨床的人権」として, 社会福祉学のミッション～」『まなびあい』第10号, pp.94-103 立教大学コミュニティ福祉学会.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉, 山城紀子, 仲地博, 浅井春夫 (2017)「シンポジウム:戦争と福祉～沖縄を考えるPart1:平和の文化を育てるために」『現場セミナー 2017 in おきなわ』報告集 pp. 28-70 日本福祉文化学会. 2) 結城俊哉 (2018)「最近の大学教育について思うこと」『日本ソーシャルワーク学会通信』No.119, p.12 日本ソーシャルワーク学会.

学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2017) 「(基調講演) ケアのフォークロア～暮らしの中からケアを考える～」日本福祉文化学会関西ブロック, 大阪, 9月. 2) 結城俊哉 (2017) 「障害(児)者福祉2: 精神保健福祉領域分科会・コメンテーター」第65回日本社会福祉学会(首都大学東京), 東京10月. 3) 結城俊哉 (2017) 「(基調講演) 実践を語ること, そして, 語られた実践から学ぶこと」『第1回ちようふ福祉実践フォーラム』調布市社会福祉協議会, 東京, 11月. 4) 結城俊哉, 阿比留久美, 岡村ヒロ子 (2018) 「戦争文化に抗する福祉文化思想の基盤研究」(中間報告)『福祉文化研究・調査プロジェクト報告』第28回日本福祉文化学会全国大会(立教大学), 東京, 2月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本福祉文化学会評議委員 2) 東京都調布市福祉人材育成センター運営委員長 3) NPO法人日本障害者協議会編集委員 4) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会委員長 5) 社会福祉法人多摩棕櫚亭協会運営評議員 6) 首都大学東京・非常勤講師 7) コミュニティ福祉学部入試委員・実習委員・インターンシップキャリア支援委員・ジェンダーフォーラム委員・日本ソーシャルワーク教育学校連盟担当委員・コミュニティ福祉学会「まなびあい」事務局長 8) 立教大学(新座キャンパス)過半数代表 9) 日本福祉文化学会「福祉文化研究・調査プロジェクト」研究(理論研究部門)「戦争文化に抗する福祉文化思想の基盤研究」(2017年: 研究代表)

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, 貧困研究, ジェンダー学
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湯澤直美 (2017) 「子どもの貧困対策の行方と家族主義の克服」松本伊智朗編『子どもの貧困を問いなおす一家族・ジェンダーの視点から』(分担執筆)法律文化社. 2) 湯澤直美 (2017) 「標準家族モデルの転換とジェンダー平等一父子世帯にみる子育てと労働をめぐる」宮本太郎編『転げ落ちない社会』(分担執筆)勁草書房.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湯澤直美 (2017) 「子どもの貧困対策からみた家族支援とジェンダー規範」『ソーシャルワーク研究』43(1), pp.17-23. 2) 湯澤直美 (2017) 「地域における子どもの貧困の可視化と支援策の構築」『地域福祉研究』(45), pp.46-53, 日本生命済生会.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成29年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金社会福祉推進事業『就労に向け準備が必要な生活保護受給者への効果的な支援のあり方に関する調査研究報告書』. 2) 毎日新聞連載「くらしの明日～私の社会保障論」(12月より毎月1回). 3) 一般社団法人沖縄県子ども総合研究所『沖縄子どもの貧困実態調査事業・報告書』2017年6月改訂版.
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本社会福祉学会理事 3) 基礎教育保障学会理事 4) 子ども家庭福祉学会理事 5) 日本社会福祉系学会連合事務局長 6) 家族社会学会 学会賞審査委員 7) 日本社会福祉学会 学会誌査読委員 8) 『貧困研究』(明石書店) 編集委員会委員 9) 貧困研究会運営委員

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 10) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会中央推薦協議委員 11) 埼玉県男女共同参画審議会委員 12) かながわ子どもの貧困対策会議座長 13) 富山県青少年健全育成審議会委員 14) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定推進会議委員 15) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長 16) 東京都社会福祉協議会「低所得世帯の子どもへの支援構築プロジェクト」委員長 17) 東京都社会福祉協議会「平成29年度 自立生活スタート支援事業運営審査委員会」委員長 18) 社会福祉法人 ベテスタ奉仕女母の家評議委員 19) 一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク理事 20) 非営利活動法人 学生支援ハウスようこそ副理事長 21) 特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団評議員 22) 非営利活動法人 こどもの里理事 <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「自治体における包括的子どもの貧困対策の形成・評価に関する研究」研究代表者 (2014-2018年度) 2) 科学研究費助成事業基盤研究 (A)「子どもの貧困に関する総合的研究:貧困の代代的再生産の過程・構造の分析を通して」研究分担者 3) 内閣府「平成29年度地域における子供の貧困対策の実施状況及び実施体制に関する実態把握・検証」作業部会委員 4) 厚生労働省「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業評価検討会」委員 5) 厚生労働省「就労に向け準備が必要な生活保護受給者への効果的な支援のあり方に関する調査研究検討委員会」委員
------------------------	--

<p>氏名・専門領域</p>	<p>LEITNER Katrin Jumiko ●スポーツマネジメント</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) ライトナー・カトリン・ユミコ (2017)「外国人からみた日本のスポーツにおける「ふしぎ」—2016リオ五輪における日本人アスリートの立ち居振る舞いに着目して—」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第5号, pp.139-146 立教大学. 2) ライトナー・カトリン・ユミコ (2018)「授業探訪 日本における「ジャパニーズ・マインド」とは」『大学教育研究フォーラム』23, pp.56-60立教大学 全学共通カリキュラム運営センター. 3) ライトナー・カトリン J (2018)「短期日本語プログラムと学部生の学び」(講演)『シリーズ 新しい日本語教育を考える』No.7, pp.43-58.
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) (一社) 日本体育学会体育社会学専門領域事務局 2) (一社) 日本体育学会国際交流委員会 委員 3) 日本スポーツ社会学会事務局 事務運営委員 4) 特定非営利活動法人スマイルクラブ 理事 5) スポーツ庁委託事業 公益財団日本体育協会「ASEAN(東南アジア諸国連合) 諸国におけるスポーツ推進貢献事業」ワーキンググループ委員